



発注先の多様な要望を形にする大長機械社員

多様な生産現場の 効率化ニーズに応える実力

株式会社 大長機械

事業内容と沿革

一品一様の仕事が 築く信頼

生産設備の自動化、省力化を担う装置の開発・設計・製造などを手がけるメーカー。昭和46年に創業した。依頼先からの相談を真摯に受け止め“かたち”にする。装置製造会社が掲げるものづくりの姿勢を同社は、多様な業界で実践・追求している。生み出してきた各機械がそれを物語る。タオル縫製機に始まり、ねじ締めロボット、色鉛筆自動箱詰め機、太陽光パネルトリミング装置、バッテリー製造関連装置、電子部品の製造・計測装置等々、実に多様な案件を形にしてきた。会社設立からまもなく設計・開発したねじ締めロボットは、オーディオ製品の組み立てライン向けに製作した。女性の作業者がねじ締めでけんしょう炎を起こす状況への対応だった。また、太陽光パネルトリミング装置は、ガラスの上に素子を乗せ、裏側にバックフィルムを貼る工程で、フレームからはみ出たフィルムをカットする機械。手作業で切っていた工程の省人化につなげた。ただ、手がけてきた仕事は“一品もの”が大半。汎用性があるものではない。それだけに事業としての難しさもあり、一品一様の仕事を長く継続的にできる企業はまれ。また、実績に基づいた信頼関係がないとできないことを考えると、ユーザーから高い評価を得ている企業と言える。

強み

探求心と チャレンジ精神が支える

請け負う設計・製作は多彩だが、共通するのが大手企業からの発注が多い点にある。立地する大阪府門真市は大手電機メーカーのお膝元で、そのメーカーの各事業部門からの発注で実績を重ねてきた。その評価もあって取引実績には他の電機メーカーだけでなく、電子部品や自動車など大手メーカーが名を連ねる。長崎崇高社長は「お客様の要求を満たすこと。それは当社に依頼した担当者が社内ですべて『良い仕事をした』と、評価されることにもなる」とし、取引先拡大の要因を語る。仕事への評価が信頼となり、次の発注につながっている。

しかし、依頼先の多様なニーズを“かたち”にするための開発は容易ではない。現在大手企業とのパイプはこれまでの長崎社長の探求心とチャレンジ精神による。仕事に関係なく興味のあるモノには展示会以外でも、仲間を頼って機械の構造などを見に出かける。仕事に関する新聞広告も気をつけ、カタログも取り寄せる。「おもちゃでも数の出ているモノを見ると、実に一生懸命考えられている」という長崎社長の尽きることのない探求心が、新たな依頼案件での柔軟な発想に生かされている。



大長機械の社屋



地元企業からの依頼で開発したスプリング耐久試験機 スプリングロープ縫製機で作られたベルトスプリング

- 企画提案
- 試作受託
- 短納期対応
- 多品種少量
- 量産対応
- コスト相談
- オンラインワン
- 海外対応

業種を問わず、ご要望を“かたち”にします



代表取締役
長崎 崇高さん

機械設計に携わっていた仕事の縁で周囲の応援もあり、昭和46年に創業しました。メカトロニクス設計・製作を通じて、生産設備にかかわる自動機や計測・試験装置などをこれまで多様な業種に納入しています。創業時から貰ってきたのは、発注してくれた企業の担当の方が「良い機械を作ったな！」と社内で言ってもらえるように、「喜ばれる仕事をする」ことにあります。発注元は大手企業が多く、技術面での高いハードルに挑み、実績を積み重ねてきました。生産設備の改善など、問題解決の相談に対応します。

主な事業内容

生産設備の自動化(省人化)装置の開発・設計・製作・据付

主な取引先(納入先)

電機、機械メーカーなど

【住 所】〒571-0076 大阪府門真市大池町6-36
【TEL】072-882-4440
【FAX】072-883-7199
【創業】昭和46年5月 【設立】昭和50年5月
【資本金】1,000万円 【従業員】11名

カドマイスターの取り組み

大手との経験が人を伸ばす

大手企業から中小企業まで業種の枠を超えて多様な仕事に取り組む。それだけに社員の人材育成が鍵となる。ただ、長崎社長は「当社のお客さんの大半が大手企業。打ち合わせなどで出向く中で、(結果的に)そこで教育されることになる」と話す。それは他人任せということではなく、自身の体験に基づく実感でもある。大手メーカーの高い技術に接するなかで得られる経験。経営トップの真意は、自己啓発にもつながるその機会の大切さにある。

地元企業の相談にも協力

地元企業から寄せられる相談や依頼も多く、それらの要望にきめ細かく応えている。このほど請け負い、開発したスプリング耐久試験機もその1つで、発注先の品質体制を強化したいという要望や、PRにつなげたいという思いをかなえている。持ち込まれる案件に対して、技術的にできないということはまずないようだが、その一方で予算的な制約もある。このため、経験豊富な長崎社長が企業のニーズを聞き取り、案件の具体化にアドバイスも行っている。

今後の展開

航空機、食品分野にも意欲

“大きくて長く続く会社”と、社業発展への思いを込めて、長崎社長が名づけた大長機械。今後は培ってきたバッテリーや太陽光発電などのエネルギー分野のほか航空機、食品、繊維関連分野の対応にも重点をおく。このうち繊維関連では現在、スプリングロープ縫製機の製造にもあたる。荷物運搬の吊り下げ用資材の縫製機で、従来の手縫い作業を自動化で効率化を支援する。また、納入から歳月を経た装置の更新ニーズもあり、現状の製造環境に対応した機器提供も着実に進めていく考え。多業種から寄せられるさまざまな要望を形にしていくなかで、長崎社長が自身の思いと重なり、琴線に触れた言葉がある。「発明はすべて苦しませるの知恵で、アイデアは苦しんでいる人にもみ与えられる特典である」。本田技研工業(株)の創業者である故本田宗一郎氏がこの言葉で、自社事業にも共通するだけに、その言葉を書き添えて額に入れ、社内に掲げている。

